

# 社会科学習指導案

日 時 平成24年10月18日(木) 5校時  
 学 級 1年B組(男子13名 女子16名 計29名)  
 場 所 視聴覚室  
 授業者 教諭 石原 圭二

1 単元(教材)名 第3章 中世の日本と世界(教育出版 中学社会 歴史)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、12世紀から16世紀までの歴史の中で、武士が台頭し、武家政権が成立するまでを扱い、我が国の中世の特色と世界の動きとの関連に着目して学習する内容になっている。「鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動」などを通して、武家政治の特色を考えさせたい。我が国が東アジア世界と密接な関わりがあったことを理解させたい。特に東アジアの国際関係については、元寇や日明貿易、琉球の国際的な役割などを扱い、武家政治の特色については、主従の結びつきや武力を背景にして次第にその支配を広げていったことなど、それ以前の天皇や貴族による政治の展開や文化の発展などとの違いに着目して考えさせ、自分の言葉で表現できるような授業展開をしたいと考えている。

(2) 指導観

教研式学力検査(NRT)の結果をみると、全領域で全国平均を上回っているが、中領域で見ると、地理的分野「日本の国土と世界の主な国々」において全国平均をやや下回っている。また、本単元に関わる歴史的分野の小問題「北條時宗と元寇」「元の襲来」「鎌倉への街道の整備」「ご恩と奉公の関係」「鎌倉時代の様子」の通過率は、全国数値を上回っているものの「歴史地図・壇ノ浦」で、全国数値を下回っている。生徒達の学習に取り組む姿勢は良好であり、ほとんどの生徒が授業に集中して取り組んでいる。しかし、資料を読みとって考察したり、自分の考えを論理的に述べたりすることとは十分とは言えない。そこで、授業の中での資料の読みとりを力を入れることや事象に対する自分の考えを記述させたり、発表する活動を通して表現力の育成を図っていきたい。そのためにも、学習や解決するための見通しを持たせたり、解決するための必然性を持たせ、興味関心や追求意欲を高めるための課題設定を大切にしていきたい。

3 単元の目標

- ・ 武家政権の成立とその支配の広まり、その後の武家政治の展開などに関心を持ち、意欲的に追求することができる。(関心・意欲・態度)
- ・ 鎌倉幕府の成立と、南北朝の争乱、応仁の乱後の社会的な変動を通し、武家政治の特色を多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断)
- ・ 様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、読みとったり図表などにまとめたりできる。(技能・表現)
- ・ 武家政権の広まりと東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解することができる。(知識・理解)

4 単元の評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用技能	社会的な事象についての知識・理解
武家政権の成立とその支配の広まり、東アジア世界との密接な関わり、武家政治の展開や民衆の成長や社会的な変動など、中世の歴史的事象に対する意欲的な追求と、中世の文化を尊重しようとする。	鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動や武家政治の特色について多角的に考察し、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まると共に、東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の指導計画（全13時間）

1 世界の動きと武家政治の始まり	
（1）大陸をまたぐ大帝国	1 時間
（2）貴族から武士へ	〃
（3）いざ鎌倉	〃
（4）御家人は団結せよ	〃
（5）祇園精舎の鐘の聲	〃
2 ゆれ動く武家政治と社会	
（6）元軍の襲来	〃
（7）このごろ都にはやるもの	〃
（8）行き交う海賊船と貿易船	〃
（9）北と南で開かれた交易	〃 本時(9 / 13)
（10）団結する村、にぎわう町	〃
（11）下剋上の世へ	〃
（12）今につながる文化の芽生え	〃
（13）学習のまとめと表現	〃

6 本時について

（1）指導の目標

- ・琉球では琉球王国が中継貿易で栄え独自の文化を発展させ、蝦夷地では先住民のアイヌ民族が交易を行う中で和人との争いを起こしたことが理解できる。
- ・日本の北と南で開かれた交易について、地図を活用しながらキーワードを使って説明することができる。

（2）本時の評価規準

評価規準	
社会事象についての知識・理解	琉球では琉球王国が中継貿易で栄え、蝦夷地ではアイヌ民族が交易を行う中で、和人と争いを起こしていたことなどを教科書や資料を使いながら調べ、ワークシートに書きまとめようとしている。
資料活用の技能	琉球王国やアイヌ民族が、どこの地域とどのような交易していたかを地図を活用しながら確認し、学習した重要語句をキーワードにして自分の言葉で説明している。

（3）本時の構想

導入では、年表を使ってこれから学習する時代を確認したうえで、前時に学習した「我が国と明や朝鮮との貿易」の様子について図を使って簡単に振り返る。その後、琉球王国とアイヌ民族の関係する写真を提示することで興味関心を持たせながら、沖縄と北海道（日本の南と北）の位置確認をすると共に、沖縄や北海道について知っていることを発表させながら本時の学習課題につなげていきたい。

展開では、学習課題に対する予想をさせ、検証をしていきたい。琉球王国とアイヌ民族の交易について、「何を・どのように・どんな方法」で行ったのかを個人で書き出させ、その後には小集団を活用し、それぞれの意見を出させながら確認をさせたい。確認した内容については、いくつかのグループに発表してもらい、教師も板書でまとめながら、全体のものにしていきたい。

本時は、学習した内容をキーワードを使って関係図にして説明することが目標であり、授業を通してわかったことを自分の言葉で表現できるようにさせたい。

(4) 本時の展開

	学習内容と学習活動	留意点と評価
導入 10分	1 時代の流れを年表で確認する。 ・前時の学習を振り返る。  2 学習課題を把握する。 ・交易の事実から学習課題にせまる。	・年表を使いこれから学習する時代を確認する。 *日本と明や朝鮮、倭寇の関係をふりかえることができる。(前時のまとめの図で確認をする。) ・首里城とアイヌ民族の2枚の写真を見せ、興味を持たせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>【学習課題】</b>            琉球王国やアイヌ民族の交易は、何を、どのように、どんな方法で行ったのだろうか。         </div>	
展開 35分	3 学習課題の予想をする。 ・ワークシートに自分の考えを書く。  4 琉球王国とアイヌ民族の交易について調べる。 (1) 教科書や資料集を使い、「もの・方法・航路」などを各自で調べ、ワークシートにまとめる。  (2) 各自で調べたことを出し合い、交易の様子について黒板にまとめる。  5 キーワードを使い、交易の関係図を書く。 ・交易の関係図について、短い言葉で矢印やキーワードを使いながら説明する。	・学習したことを図にできることがゴールであることを伝える。  ・学習シートに自分で調べたことを書く。  *他の意見を聞きながら、自分の調べたことと照らしあわせることができる。  *学習した内容を関係図に表して、説明することができる。
終末 5分	6 本時の学習を振り返る。 ・本時の学習でわかったことを自分の言葉で表現する。(ワークシートに書く)  7 次時の予告をする。	*本時の学習課題にせまることができる。